

- 町の掲示板 2
- 町の話 10
- know「農」 12
- カルチャー 13
- 町の情報ひろば 14
- 素敵人 16
- こうげマンが行く! 16

http://www.town.koge.lg.jp



町の花(春)桜
町の花(秋)コスモス
町の木 梅

●編集発行/上毛町役場企画情報課
●印刷/第印刷株式会社
〒871-0902
福岡県築上郡上毛町大字垂水1-3-21-1
TEL 0979-723-111
FAX 0979-723-664

人の動き

8月31日現在

- 世帯数 3,144 (+3)
- 男性 3,755 (+6)
- 女性 4,180 (+2)
- 人口 7,935 (+8)
- 65歳以上 2,559 (-3)
- 32.2%
- 75歳以上 1,397 (-3)
- 17.6%

うち外国人

- 人口 26(±0)
- 男性 17(-1)
- 女性 9(+1)
- 世帯数 23(±0)
- (うち混合世帯4)

参考

- 平成17年10月11日
合併時
- 人口 8,499
 - 世帯数 3,057

ごみの量

8月31日現在

- 可燃ごみ 134.38t (-11.02t)
- カンベツボトル 4.49t (+1.62t)
- びん 6.72t (+2.08t)
- 古紙他 19.02t (+7.00t)
- 可燃粗大 3.05t (-0.48t)
- 不燃 6.02t (-0.98t)
- プラスチック製容器包装 1.71t (+0.07t)
- 紙パック、白色トレイ 0.05t (±0.00t)

※()内は前月増減

環境対応型植物油インキを使用しております。



高齢化社会に対応した新しい社会づくりを目指して

地域サロン活動や介護の現場で取り組んでいるお二人を紹介します。



ハッ並さわやかクラブ
会長
橋本 敏行さん

ハッ並地区住民の交流の活性化、親睦、高齢者の孤立化防止を目的に、平成23年8月に設立し、現在26名で活動しています。

私が自治会長を6年間務めて感じたことは、地区の方々の交流が希薄になっていることでした。一昔前までは、隣近所同志の助け合いや共同作業で生活が成り立っていました。しかし現在は、便利で豊かな世の中になり、人の世話を受けなくても生活できる世の中になっています。人と人の心の繋がりが薄れていくことに、寂しさと危機感を感じていました。

そこで、長年福祉委員を務めていただいた矢野キミ子さん(ハッ並)と相談し、地区の方々に集まっていただき、「一ヶ月一回位一緒に昼飯でも食おうよ」と計画し、更に社会福祉協議会が、いきいきサロンを奨励していることを知り、この活動を始めました。

サロン活動は、皆さんが習慣として行う「食」での交流を主眼としています。また、『食へに行きましょう』ということで、外食を兼ねてバスでの日帰り小旅行も年2回行なっています。その他に、講師を招いて話を聞いたり、脳トレのために、ゲーム、歌などを取り入れています。

日本は少子高齢化の波が押し寄せています。自分を含め、高齢者のみの世帯、独居世帯が予備軍も含めると益々多くなっていきます。このような時こそ、お互い助けあい見守る事が、自宅での生活を維持する上で必要不可欠だと思います。

今後は、月一回程度の集会でなく一週間に一回、あるいは毎日でも、軽食ができる簡単なレストランみたいなものを作って、地区の方々全員の交流ができる場を提供したいものだと考えています。

これまでのサロン活動を通して

サロンの活動、老人会の活動は高齢者の活動としてとらえている方が非常に多く、加入を勧めても『まだ早い』という言葉をよく耳にしますが、高齢者だけでは活動ができません。お世話をする人が必要です。助け合いは年令に関係なく必要なことです。活動を長い間継続するため、年令に関係なく積極的に参加してください。



社会福祉法人敬愛会
熊谷 直美さん

上毛町の高齢者の方が『住み慣れた自宅や地域で、生きがいをもち、その方らしく健やかな生活が送れるよう支援する』ことを目的として在宅介護サービスの充実や介護予防に取り組んでいます。

現在は、敬愛会在宅支援課として、デイサービスさざんか荘、ヘルパーステーションわかば、小規模多機能ホーム大きなかぶにも携わるようになり、在宅支援サービスを多角的に支援できるようになりました。そして、今年4月からは、上毛町からの委託を受けて、こうげクリニック2階に『生きがいデイサービス こうげテラスほのほ』を開設しました。昼食づくりから後片付けまで、協力しながら皆さんで行い、とても和気あいあいとした楽しい時間を過ごしています。またパワーリハビリや陶芸・美容などの各種教室、外出行事など介護予防に力を入れています。

病院で寝たきりだった方が歩けるようになったり、無表情だった認知症の方が笑顔で話しかけてくれるようになるなど、ちょっとした日々の変化に感動しています。また、介護現場では、人生の大先輩である高齢者の方々に教わる事がたくさんあります。いくら介護が必要な状態になったからといって敬われなくなることがあってはいけません。いくらよい施設があっても、そこに温かい人が携わってなければ意味がないと思います。人は人とのつながりやふれあいの中で元気になり、あたり前の生活の中でのあたり前の動作が一番のリハビリになるのだとつくづく感じています。

来年度の介護保険制度改正では、『医療から介護』『施設から在宅』の方向をふまえた改革となり、ますます在宅介護支援が重要になってきます。今後も地域の高齢者の方々が安心して生活していけるよう、皆さんの笑顔を力に頑張っていきたいと思います。また、全国的に介護現場は、慢性的な人手不足が続き、将来介護難民が危惧されています。これからは、魅力ある職場環境づくりや次世代の介護の担い手の育成にも力を入れて取り組んでいきたいと思っています。

高年齢化社会に対応した新しい社会づくりを目指して

10月の表紙
9月5日(金)、上毛クリニック2階にある「生きがいデイサービス こうげテラスほのほ」で、介護予防に効果的な転倒予防体操、パワーリハビリ、そして昼食づくりから片付けまでをみんなで行いました。この日参加した11名の平均年齢は84.2歳でした。このデイサービスは介護認定を受けていない方を対象に毎週月・金曜日に開催し、閉じこもり予防・介護予防に繋げていくためのもので、上毛町地域包括支援センターはこうした取り組みをバックアップしています。

こうげマンが行く! 新吉まつり



企業と地域が力を合わせて開催する手づくりの祭り!

9月6日(土)、こうげマンは「新吉まつり」に行ってきたよ。「新吉まつり」は日立オートモティブシステムズ九州(株)と日本プラスト(株)共催の上毛町が後援して毎年開催している企業と地域が一体となった手づくりの祭りなんだ。

会場内には模擬店や車輦展示があり、たくさんの方で賑わっていたよ。こうげマンも景気回復を願って坪根町長や今任副町長と一緒にもちをついたんだ。つきたてのお餅はきなこもちや酢もちにしてみんなに食べてもらったよ。ステージではダンスやクイズ、抽選会など盛りだくさんのイベントが行われ、こうげマンもバンドの演奏に合わせてみんなと一緒に踊ったんだよ。フィナーレでは町の夜空を花火が彩り、会場内から大きな歓声と拍手が起こっていたよ。

「新吉まつり」が終わると、夏も終わりのかなってちょっと寂しくなるけど、10月12日(日)に開催される「上毛祭」で、みんなに会えるのを楽しみにしてるね。

